

かわらばん 妻入り

事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

にいがた協育プロジェクト 総括シンポジウム開催

去る2月22日(日)、新潟市万代島の朱鷺メッセにて、にいがた協育プロジェクト・総括シンポジウム「希望のステージ」が開催されました。

このイベントは新潟日報社の主催で、「新潟の人の暮らし・生き方を支えてきたもの、形作ってきたもの」の中から5つのテーマ(水・山・海・島・雪)を抽出し、県内

各地でワークショップや体験プログラムを展開してきたものです。当町では昨年の8月24日(日)に「海のステージ」と題して、「日本海とともに生きてゆく知恵と」をテーマにしたワークショップ、妻入りの街並散策と良寛トークが行われ、非常に活発な意見交換がなされました。

今回の総括シンポジウムは、東

北芸術工科大学東北文化研究センター所長の赤坂憲雄氏による基調講演、5つのステージの各代表者による総括報告、各ステージの代表者に、にいがた協育プロジェクト塾長の北川フラム氏と赤坂憲雄氏、写真家の梶井照陰氏を交えた鼎談と、非常にボリュームのある内容で開催されました。

他地域の現状や課題、将来の目標など様々なお話を聞くことができ、充実した内容でした。今後の当協議会の活動にも活かしていきたいと思っています。

今回のシンポジウムで挙げられたお話しを紹介したいと思います。「これまで新潟は『裏日本』と呼ばれ、周回遅れのような立場でしたが、中央から離れているからこそ見えているもの、見えてくるものがあるのではないかと思うのです。地域が持てる共通の夢、世界の人に通じる共通の価値、それらを生み出していかなきゃならない。そのためには地域だけで考

えていてはだめで、もっと他とながっていかなくてはならない。一緒に、現実のことをやっていきましょう。」(にいがた協育プロジェクト塾長・北川フラム氏)

「放浪するよりもその場に暮らし続けることの方が、むしろエネルギーがいるということが分かってきました。一万年続いてきた定住のあり方が崩れる時代に私たちはいる。『地域』を考えると、その構造から私たちは問い直さなければなりません。ただのお国自慢に陥ってはいけません。」(東北芸術工科大学東北文化研究センター所長・赤坂憲雄氏)



街並ギャラリー開催

昨年の10月11日(土)から13日(月・祝)の3日間開催いたしました、街並ギャラリーの模様をお伝えします。

今回で4回目の開催ですが、平成19年は中越沖地震の関係で開催を見合わせ、今年は2年ぶりの開催となりました。

東京芸術

大学日本画科の大学院生が毎年夏に当町を訪れ、現在まで当町に残していつてくれた300点を超えるスケ



ッチ画の中から、今回は平成12年から平成15年に描かれた作品を中心に、全92点を海岸地区の町屋や妻入り会館、天領の里など全11会場にて展示しました。



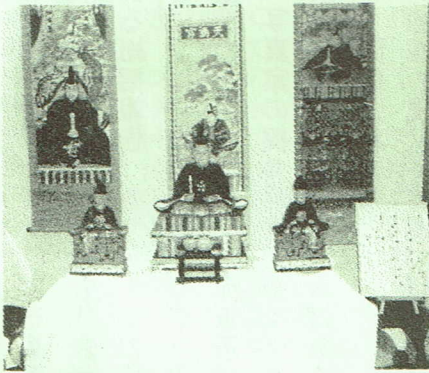
展示会場に置いた芳名録に書かれた感想をいくつかご紹介いたします。「アートと古民家のマッチがとても素敵です」「初めての訪問ですが、本当によかったです」「すばらしい心温まる企画です」「私の昔の家と同じ作りであり、懐かしかったです。有難うございました」など、成功裡にイベントが開催できたと感じられる言葉を多くいただきました。

町屋の借用にご協力いただいた、多くの皆様に感謝しております。本当にありがとうございます。

好評でした！ 妻入り会館 天神様展示

1月末から2月25日までの約1ヶ月間、妻入り会館にて出雲崎町内の有志の方からお借りした「天神様」を展示いたしました。

多くの方からご協力をいただき、妻入り会館のショーウィンドウが天神様の像と掛け軸で彩られました。展示品の中には、明治・大正時代に出雲崎の農業振興に尽力され、画家としても活躍された諸橋



湘江氏の作品もあり、妻入り会館に来訪された方々からご好評をいただきました。

今後天神様の展示を開催する予定です。「天神様」をお持ちの方で、ご協力をいただける方がいましたら、町教育委員会までご連絡ください。よろしく願います。

今後妻入り会館では、天神様の他にも様々なショーウィンドウ展示を行っていきますので、ぜひ足を運んでください。思わぬお宝や懐かしの品々にお目にかかれるかもしれませんよ!?



妻入りの街(三十五)

住吉町 磯野 猛

人物往来 新津 恒吉(1870~1924)

新津恒吉翁(以下敬称略す)は明治3年、出雲崎町岩船町に生まれました。生家は小さな小間物商で父は店売りだけでなく近くの村々へ行商に出かけ、母は手内職などで生計を保つという貧しいながらも二人の弟妹で一家五人の家庭でした。父は豪快で決断力に富み、何事にも負けぬ気の性格で、母は忍耐力が強く恒吉兄弟にも温かい心で育ててくれました。

父が四十二才で亡くなり一家離散という運命で十一才のとき高田(現上越市)へ雑貨商の見習小僧に出されます。もともと幼少から読み書きソロバンの得意な恒吉は主人からも重用され十六才のときは一人前の兄弟子よりも仕事ができ主人からも信頼を得ました。しかし独立心の強い恒吉は主人との意見の合わぬこともあって、わずか七十銭ほどの退職金で米山越えの道を歩き、八十キロの道を歩き通し

て出雲崎へ帰ってきました。恒吉十九才の時でありました。

明治二十一年、このころの出雲崎は石油の手掘りの全盛時代で尼瀬では、住居の床まで掘れば原油が出るという時で、町だけでなく町外からの「ひと山あてよう」という人々が多数押しかけ、住居としている床下を掘らせるとばかりに一軒一軒掛け合つて一坪掘る権利の交渉が現金化するような状況で、恒吉もこれからは石油の時代が来ると感じたそうです。

こんな様子を見ていた恒吉は自分も独立して事業主となる決意をして、北海道の叔父新津兵五郎が経営する廻船問屋を頼って出かけては行つたものの周囲との折り合いも悪く、出雲崎へ戻ってきました。二十一才の時二十才の女性と結婚を機に石油業に乗り出しました。少ない資金で思うように行かない時、石地町の山岸喜藤太さんの助力と助言で原油を掘るのでなく、原油から石油にする製油業をはじめたのです。恒吉二十三才のときでした。これが順調に伸び、神明社の台地

の外に蛇崩の丘にもう一つの製油を設けました。この時は石坂周造さんという石油業界の大物の援助がありました。いずれも恒吉の熱心さと真面目さが買われたのです。新津さんの名前が出身地が新津市だと思われませんが恒吉は岩船町出身です。明治二十六年、新津の秋葉山周辺で原油生産が盛んになると恒吉は出雲崎の製油所を整理して七百万円の資金で新津市へ出かけました。その人柄で事業は拡大してゆきましたが幾度かの火災などの失敗を乗り越え、製油界では押しも押されぬ新津恒吉となつたわけです。秋田・新潟でも製油所を設立、その利益の中から新潟の公会堂の寄進や、戦争中は軍用飛行機の寄附など、公共団体への寄進を続けました。当時出雲崎にも公会堂という話や水産学校という話もありましたが、それらは出雲崎に必要でないとの理由で実現しませんでした。

昭和四年ころの話です。出雲崎の若い実業家志望のMさんが株式の売買で大もうけをしておられたころ、世界

的な大不況で株式が大暴落をしました。大きな資金を使つての株式投資ですから損害も大きく五百万円の大金でした。これでMさんも困り果てもう再起不可能とまで町の資産家たちの評判になりました。思案の果てMさんは自分が五百万円も損したのだから、新津さんも大分損されたと思い近くの新津家へ訪れました。玄関へ入ると新津老は茶の間の囲炉裏の上座に座つていて純金のキセルに煙草を詰めておられたそうです。Mさんの声で「おうおうMや今来たか、お前さんが必ずうちへ来ると思っていたがよう来た、よう来た」と声をかけられました。Mさんは土間へ力なくへたへたと座り込み「ダンナさん。五百万円も損をしました」と泣き出しそうな声で答えました。すると恒吉老は「ああ五万か、そうか、おれは六十五万円損したぞ」と笑つて、「心配するな、困つたらいつでも出直して来いや」と声をかけたそうです。この話はMさんから直接聞いた実話です。

この春、種まきに
挑戦してみませんか？

花の苗を買って育てることは楽しいことですが、自分でまいた種が芽を出し、花を咲かせると、花への愛着がより一層増し、夢も膨らみます。

この春、種まきに挑戦して発芽の感動を味わってみませんか？そして花の輪を広げ、美しくうるおいのある街並みをみなさんでつくりあげましょう！

☆種まきの時期



種類によってそれぞれ発芽適温（種まきの適期）があります。この適期を桜の開花状態で判断すると、失敗が少なくなります。

〔ソメイヨシノが散るころ〕
発芽適温 15℃～20℃のもの。
アゲラタム、アスター、キンレンカ、キンケイギク、マリーゴールドなど

ドなど

〔八重桜が咲き始めるころ〕
発芽適温 20℃～25℃のもの。

センニチコウ、ニチニチソウ、バーベナ、ヒヤクニチソウ、ペチュニア、ホウセンカなど

〔八重桜が満開になるころ〕

春植え球根。アマリス、カンナ、カラー、カラジウム、ダリア、グラジオラスなど

〔八重桜が散るころ〕

昼夜の温度差が少なくなります。
アサガオ、インパチェンス、オジギソウ、ケイトウ類、コリウス、サルビア、四季咲きペゴニア、トウガラシ類、ヒマワリ、マツバボタン、ヨルガオ、ルコウソウなど

※春の種まきは、時期を急がずのんびりやりましょう。また、発芽するまでは土を乾かさないうように。

〔長岡市公園緑地課発行
小林正夫先生園芸教室より〕

つれづれに・・・

妻入り会館・来訪者のひとこと

○始めて寄せていただきました。

参考書「小さな町」で紹介されていたので良く分かりました。色々勉強になりました。

（埼玉県春日部市）

○朝ドラの「さくら」に出てくる風景に似ていました。

（新潟市西区）

○良寛ゆかりの古跡を尋ねて拝見してきました。昨日は寺泊、国上寺、これから隆泉寺へ、そして明日は柏崎へと予定しております。バス待ちの間しばらく御館を拝見しました。古い町並みを残していて印象に残りました。

（東京都）

○震災の後始末を終え、一息つきたくてのドライブ中、建物を見て立ち寄りたくなりました。案の定、ステキな空間・・・とても心が癒されました。ありがとうございました。

（柏崎市新赤坂）

あとがき

今年の冬は雪が少なくて腰痛が出なくてとても助かりました。

ところで、3月・4月といえば卒業式と入学式のある時期です。出小、出中、出高の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

中学生は卒業式が終わるとすぐに高校の入学試験があるので大変ですね。それとこの時期は別れと出会いがあります。新しい友達を早く見つけて下さい。高校の卒業生では、就職をする人もいます。しょうが、この不景気で就職先が決まらなかったり、会社側が求人票を取り消したりと、大学の進学より狭き門になっているような気がします。この不景気がいつまで続くのでしょうか。このことを思うと気が沈んでしまいませんか。そんなときは、きれいな花でも見るのもいいでしょう。お部屋や花壇に花を咲かせましょう。今年も元気で頑張りましょう。出雲崎！

石井町 納谷 稔